

日本キリスト改革派教会の創立日のこと

M.M

改革派教会が創立されて66年が経ちました。改革派教会の歴史は私の年齢と同じですから、いつでも思い出せます。4月の論壇に立石先生が「創立宣言」のことを解説されています。4月29日の礼拝では宣言の交読もしました。創立宣言は改革派教会の原点であり、理念とビジョンのエッセンスが込められたものですから機会あるごとに朗読することは有益です。

この創立宣言の最後に記されている日付、主の1946年（昭和21年）4月29日が日本キリスト改革派教会の創立日です。厳密に言うと、4月28日～29日に最初の創立大会が開催されました。昨年もこの月報で紹介した改革派神学の月刊誌「リフォームド」4巻1号に創立大会の記録がありますから幾つかを紹介したいと思います。

大会の会場は麻布南部坂教会会堂でした。（この教会はネット検索で調べるとすぐに出てきますから現存する教会です。）大会初日28日は午後2時30分から礼拝を以て始められ、午後8時30分まで6時間かけて進行されました。聖書はコリント前書12章で松尾武・北浦和教会牧師が朗読され、春名寿章・西代教会牧師の祈禱に続き、「我は聖なる公同教会即ち聖徒の交を信ず」と題して岡田稔・灘教会牧師が説教されています。（説教の内容がどのようなものであったのか、残念ながら私は目にしたことはありません。）祝禱は常葉隆興・森元町教会牧師（森元町教会は現在の恩寵教会）が捧げられました。

礼拝に続く大会会議では常葉教師が「座長」に就かれ、点呼します。出席者は上記4教師と渡辺公平・仙台教会牧師、藤井重顕・四日市教会牧師、大山忠一・福井教会牧師、野田辰夫・高松教会教師の8教師、川島梶三郎・森元町教会長老、早川亮・灘教会長老、諏訪一郎・四日市教会長老の3長老、合計11名でした。議長に常葉教師が、書記に松尾教師が選出されました。

初日の議題では初めに教会の名称が諮られ、岡田教師提案による「日本基督改革派教会」（英文、THE CHRISTIAN REFORMED CHURCH IN JAPAN、現在は THE REFORMED CHURCH IN JAPAN）を満場一致で可決します。続いて春名教師より、信条は「ウェストミンスター信仰告白」並に大小教理問答に前文を付加したるものとする、前文はウ信仰基準が世界的信条を経来れるもの即ち正統信仰の展開完成せるものなる点を現すとする、と提案されます。さらに、岡田、春名、松尾の3教師が委員に挙げられて大会中に前文を作成することとなりました。今日、私たちが朗読する創立宣言の信仰基準の前文（カタカタ表示箇所）はこのような経緯で作成されたものでした。続く議題には「中会建設の件」が諮られ、西部中会（教師5名、教会5個）、東部中会（教師3名、教会3個）が可決されます。

29日には大会書記選挙について「議長任期は本会議中のものに限り休会中の行政執

行の担当者として書記を置く」の提案を可決します。また、日本基督教団白石教会牧師の川島専助氏が「教団を離脱して本創立大会組織員の一人として加盟したい」旨の熱心なる申出をなされて、議場は満場一致で受け入れ可決しました。次に文書活動が相談され、「我らの立場を宣伝する活動について語り合い」、「この結果、後日我らの『宣言』が生まれるようになった。昨日の決議による『前文』が議場に紹介され受け入れられ今日の『宣言』の中に収められている。」とあります。神学校の扱いや加入教会取扱いなども議論され、次期大会（神戸）などを決めて午後5時に最初の大会が終了しました。「かくして我が国の改革派教会の第一歩が固く踏み出されたのである。」記録を読みながら、創立日に集まった教師と長老の熱き思いが伝わってくるような気持ちになりました。

御言葉の中に

N. S

キリスト者とは、御言葉を告白しながら、生かされる者だと思えます。自分の感情・考え・理屈・判断の間違っていることを認め、御言葉の正しいことを認めて、神様に属する者として新しくされながら生かされる者だと思えます。神様の願いは、私達が御言葉の中において神様と共にいることだと思えます。聖書の中で繰り返し「わたしと共にいるように」と神様は語って下さっています。

「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている」(ヨハネ 15:4)

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(マタイ 4:19)

「わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」(ヨハネ 12:26)

「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。」(申命記 30:14)

「あなたたちは、あなたたちの神、主が命じられたことを忠実にいき、右にも左にもそれてはならない。」(申命記 5:32)

けれども、神様の御言葉はあまりにも聖いので、私達罪ある人間の力では守り得ないものです。どんなに才能・能力・学力・行動力・実力・権力・地位・身分・肩書き・財産等があっても、自分の罪という問題・救いということについては、人間には何の力もありません。

キリスト者の信仰の歩みは、キリストの十字架の御業の効力と聖霊の内住によります。

生まれながらの古い性質の私が生きているまま、その私が「頑張って御言葉を守ろう！」としても自分の力で自分を罪から救い出すことは出来ません。

その都度、「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」(ガラテヤ 2:19~20) という御言葉を認め、告白し、神様の御言葉(神様の支配の中)に自分を明け渡し、委ね、預け、神様に生かしていただくことが信仰だと思えます。

私も、教会の方々と共に、日々、一瞬一瞬、神様の御言葉の中に生かされていきたいと思えます。

聖隷横浜病院「お祈りの会」のご報告と今後の課題

K. Y

2012年2月14日、聖隷横浜病院で午前11時から、お祈りの会が開催されました。まず、最初に讃美歌312番の1,2節を歌い、聖書テサロニケの信徒への手紙15章16-18節の朗読があり、それに引き続いて、武田治子牧師にメッセージをしていただきました。次に、祈禱課題「受診あるいは入院されている患者さんの病が良くなり、苦痛が取り除かれるように。」「受診あるいは入院されている患者さんやご家族がイエス・キリストによる慰めを経験することが出来るように。」「今後も祈禱会を続けることが出来るように。」を、立石先生始め、4の方が順にお祈りし、讃美歌312番の3節を歌い、全員で『主の祈り』を祈って終わりました。閉会の後少しの時間、自己紹介等、親睦の時をもちました。

30名の参加があり、教会に出席している外来患者さんや、近くに住んでおられる外来患者さん、入院中の方2名(中には、入院中で日曜日の礼拝に出席出来なかった患者さんもありました)、また、エデンの園の職員も参加されました。参加者の中から、今後も定期的に(少なくとも月1回)開催してほしいという声がありました。皆様には、お祈り、ご協力頂き、感謝申し上げます。

その後3月6日には、病院側と、聖隷横浜病院と関係のある牧師先生方、立石先生、私とで今後の方針について面談しました。その結果、病院側からは様々な要求が出されました。今回のお祈りの会の内容として、いやしのお祈りは病院にはふさわしくないとの申し出があったため、今後は祈禱会ではなく、礼拝を行う事を考えています。毎月行う事を願っていましたが、毎月は難しいとのことで、季節毎(6月は花の日、12月はクリスマスのキャロリングがあるので、9月と2-3月頃でしょうか)なら可能とのことでした。時間としては午前の忙しい時間は事務員の出席が難しいとのことで、午後に行う事を考えています。今回は名簿を書いて頂き、自己紹介をしましたが、今後は名簿、自己紹介を行わずに、自由に参加する方針となりました。様々な要求はありましたが、面談での牧師先生方のご尽力により、会の廃止は何とか免れ、頻度は少ないながらも継続出来ることになり、感謝しております。

今後も、聖隷横浜病院が名実共にキリスト教病院として主に用いられ、患者さん達のお役に立てる病院になるべく、励んで行く所存です。次回は9月に礼拝を行う事を願っております。是非引き続きお祈り下さい。